

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2371400884
法人名	有限会社さくら
事業所名	グループホーム浦里
訪問調査日	平成 20年 6月 25日
評価確定日	平成 20年 7月 15日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371400884
法人名	有限会社さくら
事業所名	グループホーム浦里
所在地	〒458-0847名古屋市緑区浦里5丁目109番地 (FAX)052-624-3665 (電話)052-624-3382

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町1丁目24番地COMBi本陣N203		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年7月15日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨陸屋根造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,800 円	その他の経費(月額)	光熱水費他28,650円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(105,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,350円	

### (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79.7歳	最低	67歳	最高	94歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	三つ葉在宅クリニック、うえのだ歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム浦里では、その人が”その人らしく”自立した生活がおくれるように”と職員全員がその実現を目指して支援している。開設以来から”鍵かけしない”、”開放感”を大切に掲げ、地域との交流を図り、協力も得られている。ホーム長が将来自分が入りたいと思うホームづくりを目指し、運営母体の代表等と共に立ち上げ、運営してきた。ホームには5項目の家訓(方針)があり、利用者は浦里家の家族である。職員の団結力は強く、ホーム長との信頼の絆も太い。職員の勤続年数は長く、利用者との馴染みの関係が築かれている。このような状況がアットホームな雰囲気を醸し、利用者の落ち着いた様子や穏やかな表情に現れている。常勤の看護師と協力医療機関のチーム連携により、24時間医療体制が組まれているので、医療面の安心があり、終末期介護(看取り)についても積極的な取り組みをしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームで何か問題が生じた時には、その日のうちに解決するように努め、職員は行動的に取り組んでいる。前回の外部評価での課題であった意見箱の設置も、即刻、実施したが、相談窓口であるホーム長に直接相談を入れてくるため、あまり設置の意味がないという状況で取り止めた経緯が報告された。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価100項目に取り組み、纏め上げたのが今回の自己評価の内容である。職員の中には、「大変だったけど各項目について自分なりに書いてみることで気づいたことがたくさんあった。」と苦心や充実した喜びの声が聞かれた。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2~3か月に一度開かれている。6月の会議では実施した行事と今後の予定についての報告がなされた。話し合いの内容としては、「ターミナルケア」への認識や災害時の対策についてなど。会議そのものは30分程度であるが、ぎっしり詰まった話し合いをしている様子が伝わってくる。メンバーは利用者本人を含め、家族代表、町内会長、民生委員、協力機関の医師、ホーム関係者等で、様々な立場からの意見を取り入れようとする真面目な姿勢が伺える。
	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見、苦情はホーム長が窓口となって受け止めている。何か問題が起きたらその日のうちに対処するように行動したり、苦情となる前に、気づいた点などは日々話し合いの中で解決するように努めている。また、重大な事柄は職員会議にて、検討し改善を図っている。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は全員町内会に加入して、2、3か月に一度の清掃日には職員と共に参加している。最近ではホームの存在が地域に浸透してきたので、何かと歓迎されるようになり、「使ってください。」とゴミ袋やタオルなどを差し入れてくれる地域の人たちもいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム自体を一つの家族と考え、家訓として「1.いつでも仲良く元気よく」「2.気分・体調に合わせた生活を」など5つあり、ホーム長の味のある毛筆で書かれた家訓がホームのところに額に入れて飾ってある。地域との交流もあり理解・協力が得られている。わが家と同じ雰囲気、一人ひとりが「ありのまま」「自然のままに」暮らせることを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家訓の「3.開放的なところと空間で」や「5.それぞれの力を信じよう」という目標から利用者の自立力をつけるため、階段や通路を工夫して自立歩行をしたり、普通の家庭にある段差をそのままにし、見守ることで利用者の自立に役立っている。何か問題が出た場合は、すぐその場で模様替えするなど職員が常に利用者の気持ちや状況、行動に気付くように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が町内会に加入し、2、3か月に一度の公園の清掃や町内親睦会のバーベキューの催しに参加した。近所の人が、オムツをもって来てくれたり、野菜の苗をくれたりもする。ホームで月1回開く手芸教室にも地域の人に参加している。地域の消防団で行う救急救命講習に利用者・職員全員が参加した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、職員全員が個別に自己評価を記入し、話し合ったのち管理者が一つにまとめあげた。職員の一人ひとりが評価の内容を理解することで、気づきや改善すべき点を見つけ、日々の支援に活かすようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2~3か月に1回開催し、利用者とその家族、医師、町内会長、民生委員が参加している。会議内容はサービスの現況、利用者の入退去報告、事故・苦情・相談の報告、旅行・外出・外食などの行事報告などである。災害時の地域協力の要請や在宅医療のターミナルケアなどの話し合いも行われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年から名古屋市緑区南部地域包括センターとの関係を築き上げることができ、地域包括センター主催の家族会で、ホーム長が講演している。地域包括支援センターや市町村との連携を密にする努力を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	頻繁に面会に来る家族が多く、その都度家族に利用者の近況を伝えている。家族への報告は月1回送付する書類に預り金の明細書や旅行・食事会の写真と、日頃の暮らしぶりを綴った手紙をつけている。これが面会に来れない家族にも安心してもらえている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、家族からの意見を話し合ったり、年2回、敬老の日と夏祭りの家族交流会でも意見や苦情を把握している。以前は意見箱を設置していたが、家族と職員の信頼関係が築かれているので、意見箱設置の必要がなくなった。苦情となる原因を事前に把握して、できるだけその日のうちに対処している。苦情相談については、重要事項説明書に市町村およびホームの相談窓口が明記されている。	○	利用者の中には家族関係が疎遠な人もいる。ホームは、これらの家族に郵送などで毎月、事務連絡や状況報告をしている。今後も引き続き、家族等との関わりを保つよう、普段の努力を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来、職員の異動が少なく、職員も安心して働ける職場である。利用者には慣れた職員であるがため、馴染みの関係が築かれている。利用者は穏やかで落ち着いていて、利用者同士が支えあう関係もできている。ホーム長は、職員の立場や気持ちを考えていて、職員もそれに応えている。それゆえに利用者もゆったりと日々を過ごしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤の職員は全員、看護師または介護福祉士の資格を有している。資格取得のために、職員はスキルアップに意欲的であり、シフトの変更も柔軟に相互協力が得られている。名古屋市南東部地域の職員交流会の研修を2か月に一度行っており、大方の職員が参加している。研修に参加した職員はホームで伝達講習を行って、内容の共有に努めている。ホーム内のさまざまな問題も職員で話し合い解決している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流として、市南東部地区の親睦会が年に1回開かれ、情報交換や勉強会が行われている。他ホームの職員同士の交流は、サービスの質の向上に繋げたり、食事会でストレスの解消を図るのに役立つ。また、ホーム内では食事会を開いたり、定例会議後に親睦会を開いている。サービスの質の向上を目指し、名古屋市や介護福祉士会の研修会には職員が相互に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規の利用者には、ホーム長が、入居前に自宅や病院・施設を訪問し、面接、相談を行っている。ホーム見学や共にお茶を飲んだりして、馴染みの関係を築きながら、スムーズな入居に努めている。体験入居などはない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理が好きな利用者は食事作りに参加したり、また、職員が味付けを教わったりしている。さらに、洗濯物干し、毎日の掃除や雑巾がけを利用者が進んで行うので、職員は利用者の行動に触発される場面が多い。利用者と職員が、たわいもない会話を楽しんだり、利用者との関わり時間を多く持つよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の生活の中から利用者本人の意思や気持ちを把握し、個別の介護記録を記入している。利用者の思いを職員が共有して、本人の要望に応えるように努めている。うまく意思表示のできない人には、表情や身振り・素振りや言葉を変えたりして、意思の疎通を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、常に利用者、家族と相談しながら作成・見直しをしている。さらに、常勤の看護師が看護計画を作成している。計画には、医師の意見も盛り込まれている。記録書は「センター方式」の手法を一部取り入れ、利用者の状況を細かく記録・チェックしている。ケアマネージャーも日々の記録から内容を把握して、介護計画の作成に携わっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に、3か月に1回、定期的に介護計画の見直しを行っている。また、1か月に1回介護計画を評価し、3か月ごとに家族等への報告をしている。急な見直しが生じた場合は即日対処し、現状にあった介護計画を作成するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	代表者が看護師でもあり、即、疾病、急変に対応できる。ホームはターミナルケアにも対応できる体制である。今年6月、2泊3日の旅行が行われ、利用者、家族、職員だけでなく、職員の家族も共に楽しんだ。ホームは行事も多く、誕生日会、季節行事、外食、観劇、体操教室、アニマルセラピー、音楽療法などにも取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療体制ができています。協力医療機関からの往診が毎週ある。協力医療機関は現在6名の医師でチームが生まれ、ホームのターミナルケアにも対応している。毎週金曜日にはホーム医が往診、歯科医は1年に1回定期検診にきている。服薬の処方、指示も適切に指導してもらっている。現在の利用者は体調が安定しているので、昼寝をしても夜間はぐっすり睡眠がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの「ターミナルケアについての指針」、「確認書」、「同意書」の書類を本人と家族等に説明し、文書を取り交わしている。職員全員と医師が状況を把握し情報を共有している。ホーム開設以来で看取った経験も多く、看護師の常勤、医療連携24時間対応なので、過去に生じた看取りでは自然な形で終末・最期を迎えられた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報ファイルは、所定の場所に保管し、職員全員が取り扱いに気をつけている。ファイルは利用者の目触れないようにし、背表紙や介護記録は個人が特定できないようにしている。業務日誌には「ヒヤリハットメモ欄」や何気ない利用者との会話や行動についての「気づき欄」を設けて、具体的に記入している。利用者の名前の呼び方は、本人の希望を聞いて呼び名を決めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは細かな決まりはなく、利用者がわが家で過ごす様に気分・体調・気候に合わせて日々の生活をしている。職員はさりげなく、利用者のサポート役に徹している。テレビを見るよりも、読書や会話をしたり、日向ぼっこや昼寝をしたり、自分のペースで気ままに生活している。	○	利用者は趣味や特技、楽しみごとを持っているので、これらをより啓発するような支援が期待される。ホームは多様な行事やレクリエーションを企画・実施しているが、利用者が持っている才能の誘発、やってみたいと思いつけてきた願望の実現などを支援をされるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に買い物をし、献立は職員が利用者の好みを考え作成している。調理・味付け・下膳・食器洗い・片付けも職員と一緒にやっている。食事は外庭や1階または2階の食卓で、その日の気分で場所を変えている。咀嚼力が低下している利用者には、配膳後にきざみ食にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を10時から18時と設定し、原則、毎日入浴ができる。職員は利用者の希望に合わせて、介助や見守りの支援をしている。個室で長湯の入浴を楽しむ人には、職員はあまり手を出さずに見守りに徹している。入浴を拒む人には声かけを工夫して、入浴してもらうようにしている。あがり湯は一人ひとりシャワーで流し、入浴後の浴槽や床は都度、清掃・消毒をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者間での話し合いの場が設けられ、各々役割分担をしている。日常では、利用者は読書・将棋・日向ぼっこ・トランプ・ぬりえ・買い物・散歩・カラオケなどで、ゆったり自分の時間を楽しんでいる。多くの利用者は昼寝をして心身のリフレッシュをしている。現在、子ども達とミュージックベルの演奏を共に練習して、来年1月に発表会を予定している。これは、利用者の励みと団結、および脳の活性化に役立っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近くの公園への散歩など、多くの機会をつくり、利用者と職員の気分転換を図っている。近くのスーパーやコンビニへ行き、おやつを買ったり、自分で代金を支払っている。職員は、誰が外出したか常に把握するように気を配っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来、日中、玄関の鍵はかけていない。夜間は、防犯、安全のため20時から翌日7時まで施錠している。出入りは自由、玄関、裏口ともに開放的である。出入りのチャイムは鳴らさないで、職員は利用者の動向を見守り、把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網は事務所に掲示してある。防災訓練では、消防署の協力より年2回実施している。今年4月、救命救急講習を地域の消防団の協力を得て、職員と利用者が全員の参加して、実施している。消火器は、1階、2階のフロアと台所にあり、使い方も実地訓練をしている。災害対策は運営推進会議でも、町内会への協力依頼と相互協力の体制のあり方を話し合った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は、栄養バランスと味付けに工夫をしている。個別記録に食事の量・水分量・排便・排尿などが記入され、職員全員でチェックしている。口腔ケアとして、歯磨きは個別に毎食後に確認と支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存建物を改装したホームで、使い勝手に工夫をしている。フローアとトイレは1日2回は清掃をしている。「我が家と同じ雰囲気」が家訓であり、室内はありのまま、さほど殺風景ではない。居間には桐のダンスや飾り台など、昔懐かしい家具を置き、落ち着いた雰囲気になっている。階段には昇降機が設置されているが、普段は手すりを使い階段を上り下りしている。現在、車椅子を利用する人はいない。共用エリアの模様替えは、利用者状況と気分転換のため度々行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は居室に、衣装ケース、テレビなど、新品ではなく使い慣れた家具を持ち込んでいる。また、仏壇、ぬいぐるみなどの愛用の品もある。ポータブルトイレが全室に置かれていていつでも使える。このことで夜間、排泄の失敗がなくなった利用者もいる。		